

おはようさん

創刊号

良くも悪くも大人が築いた文化の中で育つ子どもたちにも、私たちが大人の生き方が今問われています。京都の躰を語る女性の会は、躰といういきさか古びた言葉を持ち出し、伝統と文化の町—京都において、今も息づく「躰」や「訓」にともに学び、ともに語ることから、真の子育て文化を提唱します。

盛大裡に発会式を終えました

発会式当日は、会員をはじめとする多くの方々にご参集頂き、特に狂言奉納は一般の参拝者も含む延べ二百名という大盛況ぶりです。八坂神社の境内に笑いの渦が巻き起こりました。

発会式次第

第1部 発会式

国歌「君が代」奏楽
 発会準備委員代表挨拶
 提言者紹介・挨拶
 狂言・講師紹介

第2部 狂言奉納

演目 『二人袴』
 出演 茂山社中

休憩・歓談

第3部 親子対談

出演 茂山あきら
 茂山童司
 司会 二代目 藤蔭静枝



発会式・国歌奏楽：雅楽での国歌は厳肅な雰囲気を一層際立たせ、好評を得ました。



発会式・提言者挨拶：主婦という立場から日頃の思いを大いに熱弁。(代表 井上氏)



和やかな親子対談：舞台での堅いイメージとは違った、面白く、それでいてためになるお話で、多くの方から共感を博しました。

狂言奉納：『二人袴』の一場面



京の祭事と伝承

ここでは、京の祭事や行事に関連した子どもと躰に触れてみます

祇園祭

七月一日～三十一日
東山区祇園町、八坂神社

日本三大祭の一つ祇園祭といえば、十六日の宵山と十七日の山鉾巡行・神輿渡御が良く知られているところですが、この御神幸には欠かすことのできない、ある重要な役目があります。

その役目とは、山城國乙訓郡訓世村（現南区久世上久世町）の綾戸國中神社の駒形稚児です。駒形稚児と祇園祭との関係は「國中神社は素盞鳴命、荒の御魂なり。八坂郷祇園社は素盞鳴命、和の御魂なり。依って一体にして二神、二神にして一体で神秘の極みなり」と古文書に記され「御神幸の七月十七日に訓世の駒形稚児の到着なくば、御神輿は八坂社から一步も動かすことならぬ。若し此の駒故なくしてお滞りあるときは、必ず疫病流行し人々大いに悩む」とも伝えられています。



本年、ご子息が稚児を勤めることとなり、依って親子三代に互り稚児を奉仕されている、綾戸國中神社宮司杉浦匠氏にお話を聞きました。

◎杉浦家は親子三代に互り稚児をお勤めとのことですが、例年どのように稚児を選出されているのですか？
「氏子、崇敬者（氏子区域内）の中から小学校三・四年生くらいの男児を公募しているが、応募者は少ないのが現状です。総代が相寄り適当と思われる家庭に依頼して毎年二人の稚児を選出しています。」

◎宮司さん自身が稚児を勤められた時の、何か特別な思い出はありますか？

「当時、私も小学校三年生でしたので、特に特別な思い出は記憶にございませんが、馬上から見下ろす景色がよかったこと、殿様のように扱ってもらい嬉しかったこと、化粧がいやだったことくらいが思い出です。」

◎古文書の記録を見ておられますと、かなり古くからの伝承のようですが、今でも変わらずに受け継がれている「訓」のようなものはありますか？

「昔は駒形稚児「講」があり、稚児を勤める家が決められていて、その家に適当な子供がいなかった場合は、親戚等から男児を借りても勤めたようです。」

◎最後に、此の度稚児を勤める齋君に、意気込みを一言。

「まだ稚児というものがよくわかりませんが、お父さん・お爺さんからの教えを守り、一生懸命つとめたいです。」



◎神幸祭に供奉するにあたり、例えば前夜に必ずこれは行うといったような習わしはありますか？

「特にはありませんが、祇園祭の期間中、胡瓜は食しません。」

◎稚児を勤める子どもは、実際には祭を理解するのは難しいと思われませんが、どのように説明をされていますか？

「毎年、六月の下旬から七月の上旬にかけて、各儀式の意味、稚児の自覚、簡単な祭式等、宮司宅で一回一〜二時間、三〜四回かけて二人の稚児を教えています。」

連載・時事を問うコラム①

「一人前ということ」

岩屋神社禰宜 室田一樹

わたしが奉職する神社では戦前まで、十五歳になった若者は秋祭りの日、衆人看視のなか米俵を一俵担がなければなりません。無事これを終えろと、その日から大人の仲間入りです。神輿も担げるようになり、仕事においても付き合ひにおいて一人前として扱われました。人から認められた喜びが自信となり、延いては村の一員としての責任感も醸成しました。

人は社会的な存在です。人との関わりなしには生きていくことができません。それは個々の人間はとも弱いという点でもあります。それだけに相互扶助の精神を培い、人のために役立つことに喜びを見出して、共同体を構成してきたのでしよう。

今の若者は、何によって自分が一人前になったと自覚できるのでしょうか。社会人になったからか？金を稼ぐようになったからか？二十歳になったからか？そうかもしれませんが、多分に個人的な判断であり、社会が容認したわけでもなく、社会的な認知を得たいとも思っていない。昨今の

成人式での態度が、これを如実にあらわしています。主たる養育者（主に母親である場合が多い）からの絶対的な愛とそこに交わされるコミュニケーションの絆をもとに、幼児期には自己と他者の区別を学び、社会性を身につけ、義務教育の場では社会人に必要なスキルを身につけ、思春期を乗り越えてやがて一人前になる、その証しが一俵の米俵なのです。こうした成長を、家庭と地域と学校が支えてきたという当たり前の構造が今、大きく揺らいでいます。

おそらく学校崩壊の危機は、日本の大きな転換期を示唆しているのでしょう。昔は良かったため息をつくだけでなく、会員の叡智を集めて、京都らしい子育て文化を発信してください。そのためにも、会員の声を、主張を、提案を、事務局までお寄せ下さい。



京のなぜ？

夏にはなぜ鱧^{ハモ}を食べるのでしよう？

口が大きく、歯がするどいところから「噛む」(はむ)が転じて名がついた鱧。京都の特産物ではないのに、夏になると京都の料亭などでは、鱧一色になります。この由来を、大文字の女将 今井さんにお尋ねしました。

皆様よくご存知のように、京都はお魚が入りにくい位置にあります。まして、夏の暑い時は尚更です。こういう時、瀬戸内で獲れ、精気が強く他のお魚に較べいたみの遅い、しかも梅雨の水を飲んで淡白ながら旨味のある鱧に白羽の矢が当たったのです。

ところが骨が多く、身にくい込んでいる為、普通のお魚の調理法では全く食べることが出来ません。そこで京の食文化のすごい所です。一寸の間に二十五位の包丁目を、皮を切らずに骨だけ切る「骨切り」という手法をあみ出し、これは永年修行をしないと出来ない職人芸ですが、そのお蔭で京都では、よそでは味わえない夏の楽しみがあるのです。

次回予告

おぼんざいの調理と講演会

『こだわりと』

京の暮らし』

日時

平成十一年九月九日(木)
午後六時三十分から
午後八時三十分頃

場所

八坂神社常磐新殿
(東山区祇園町北側)

会費

お一人様 壱千円

内容

- ◎「おぼんざい歳時記」ビデオ鑑賞
- ◎今井さんの調理実演
- ◎食事会・講演会

講師

当会提言者
大文字女将 今井 貴美子 氏

※託児室をご用意しております。お子様連れでも、是非ご参加下さい。

現況報告

会員数 153名
ホームページアクセス件数
1,379件

平成11年7月7日現在

舞と音のコラボレーション

藤蔭静枝 & 竹中真

(日本舞踊 藤蔭流二代目) (ジャズピアニスト)

日 時 / 平成11年7月24日 (土)

場 所 / 京都市国際交流会館イベントホール
左京区粟田口鳥居前町2-1

開 場 / 午後4時

開 演 / 午後4時30分

入場料 / 前売3,000円 当日3,500円

申 込 / 国際交流会館 Tel 075-752-3010

お奨め下さい

ご家族・親戚・知人の方にも
是非とも入会をお奨め頂き、
催しには皆様お揃いでご参加
ください。

入会について

- 入会金・年会費は無料です。ただし、催しにより実費をご負担頂く場合があります。
- 会員は女性に限りますが、男性も会員といっしょに催し物にご参加頂くことができます。
- 会の活動に著しく妨げとなる言動の方には、退会をお願いする場合があります。

お問い合わせ先

〒603-8243

京都市北区紫野今宮町2-1

京都府神社庁内

京都の躰を語る女性の会事務局

TEL 075-492-6327

FAX 075-491-7339

<http://www.net-k.co.jp/situke/>

E-mail:situke@net-k.co.jp

アンケート調査結果報告 (抜粋)

発会式にて実施

Q 本会に期待すること

- ・昔から受け継がれている躰のみならず、個性を重視し、将来を見据えた躰を考えてほしい。
- ・女性男性を問わず、大人がどうすれば有言実行していけるのか考えたい。
- ・子どもの躰感と親の躰感について。
- ・納得のいく躰ができる話し合いが持ちたい。
- ・将来を担う子どもたちに、より良い躰ができるようご教授いただきたい。
- ・感情や思想に流されない、客観的な意見交換の場にしてほしい。

Q 興味のある伝統芸能・伝統工芸

雅楽、日舞、狂言、歌舞伎、邦楽、華道、茶道、清水焼、染色、織物、季節の風習、着付け、京ことば、京料理、祭り、舞楽、庭園、町屋建築

Q フォーラムで取り上げてほしい課題

- ・伝統芸能の裏方にいる女性のお話しが聞きたい。
- ・行儀作法の講演やお稽古場の見学
- ・家庭の日常の中で伝えられてきたもの
- ・神社参拝の礼儀と作法
- ・美しい言葉遣い
- ・日本神話や国旗・国歌について
- ・神社仏閣などのお庭など、日頃公開されていないような場所を拝見したい。

Q 本日のプログラムの感想

- ・殺伐とした親子関係の現在、ほっとする温かさがありました。
- ・狂言の中には立派な教訓があり、見方によっては新しい発見があります。
- ・初回の催事に狂言奉納はふさわしく、京都らしくて嬉しかった。
- ・今の社会に疑問を持つ人の多さを痛感しました。
- ・古き良き時代のものを今自分の中でふまえることが、時代への躰の礎になるのだと痛感しました。
- ・自分自身を自覚して生きることの大事さを学びました。
- ・人に迷惑を掛けないことが躰の根本というお話し、本当にそう思いました。

次号より「会員の声」のコーナーを設けたいと思います。当会や本誌に対するご意見・ご感想、また、会員の方へのご意見・呼び掛けなど、書面・FAX・メール等でどしどしお寄せ下さい。